

平成 28 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカⅡ講座 准教授
氏名 Name	松本健二
専門分野 Academic Field	ラテンアメリカ文学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	チリにおける反詩の系譜：ニカノール・パラとエンリケ・リンの文学に関する総合的研究
<p>上記研究テーマについて資料整理を進め、最終的な不足分は 2016 年 11 月 30 日～12 月 7 日のチリ出張で確保した。研究成果については論文「反詩の第二段階—ニカノール・パラ『アルテファクト』をめぐって—」(Estudios Hispánicos, 41, 45-75) と同じく論文「暗室のナルシス—エンリケ・リンの初期詩学に関する考察」(Estudios Hispánicos, 41, 77-104) で公表した。最終年度に当たり成果報告書を作成、研究成果の概要は以下の通り。《チリの詩人ニカノール・パラ (1914-) は 1954 年の第一詩集『詩と反詩』以降、ラテンアメリカ現代詩を様々な形でリードし続けてきた。反詩とは、平明で口語的な詩句を用い、卑近で個人的なテーマを扱うという手法であるが、同時に、堅苦しい伝統的文学や硬直した「詩的なもの」をユーモアやアイロニーを込めて嘲笑する創作姿勢でもある。いっぽうその反詩を当初から支持した同じチリのエンリケ・リン (1929-88) は、ロマン主義的で古風な作風を維持しつつも、独自の前衛的スタイルを確立し、パラが始めた反詩という一つの系譜に新たな路線を加え、軍政期以降の若い作家たちにとっての精神的支柱となっていることがわかった。》なお、研究期間中にチリで資料調査を行うと同時に、パラやリンの系譜の先端にいるともみなせる若い作家たちと親交を深めた。ブーム期以降のラテンアメリカ文学の動向は主要な小説だけを追っていても把握できない深みと規模を有するが、特にチリでは詩や造形芸術等、異なる様々な表現メディアを繋ぎ合わせることで思わぬ発見があることに気が付いたことは、科研本来のテーマと並ぶ重要な収穫であったと言える。</p> <p>この他、翻訳の業績としてエドゥアルド・ハルフォン『ポーランドのボクサー』(2016 年 5 月、白水社)、セサル・バジェホ『セサル・バジェホ全詩集』(2016 年 7 月、現代企画室)、ロベルト・ボラーニョ『ムッシュー・パン』(2017 年 1 月、白水社) を刊行した。</p>	